



武雄から「元気」を届けよう！

武雄市長 樋渡 啓祐

新年あけまして
おめでとうございます

市民の皆様には新たな年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

「じ」あいさつしつつも、東日本大震災の被災地に思いを馳せますと心穏やかではなく、私も皆様とともに、一日も早い被災地の復旧、復興を願っています。

市民の皆様には、発災直後から義援金や支援物資の拠出、避難者の受け入れや現地でのボランティア活動（チーム武雄）など、被災地支援に積極的に御協力をいただきました。

今や武雄市の被災地支援は現地でも多くが知るところとなり、私も被災地から「武雄からたくさん元気をもらつた」「遠い武雄と『絆』を感じてきた」といった感謝の言

葉が数多く届けられております。

復興には息の長い支援が必要であり武雄市としても市民の皆様の御理解、御協力をいただいて、引き続き取り組みたいと考えています

が、被災地に元気を届けるために、何よりもまず武雄のまち、武雄の人々が元気でなければなりません。昨年6月、新武雄病院がオープンしましたが、救命救急対応をはじめ、市民の皆様の命と健康を守るべく、武雄市の医療環境の充実を図ることことができました。看護学校も併設され、市内の若者が武雄を離ることなく就職につながる知識や技術を学べる環境も出来ています。

また10月には北方町宮裾地区に「武雄北方インター工業団地」が完成し、早速、分譲を開始しました。企業誘致は、働く場の確保や企業からの税収増加、地域経済の活性化など、「元気なまちをつくるには大変有効な政策ですので、私自身、文

字通りトップセールスマンとして早期の誘致実現に向けて走り回りました。

このほか、11月には市のインターネット公式ページで武雄の特産品を全国、世界に向けて販売する仕組み（ファンバイ良品）を作りました。

武雄市のページは、以前は月延べ5万人ほどの閲覧数でしたが、現在では4か月間で約1500万人もの方に見てもうほどになっています。そこで特産品を販売することで多くの方に知つてもらい、武雄の「良品」の売上げ向上につなげいくところのが狙いでです。

今年は辰年、龍の年です。

日本が震災で受けたダメージを乗り越え、「龍の」と「反転上昇」の年になるように、武雄から元気を発信していくたい、そのためにも武雄をさらに元気なまちにしていきたいと決意を新たにしています。

